

もも栽培情報 第5号

令和5年7月3日
J A ア ル プ ス
富山県富山農林振興センター

1 概況

園芸研究所果樹研究センターの調査では、6/30（満開 89 日後）の「あかつき」の果実横径は 62.5mm で前年、平年よりやや小さくなっています。

病害虫については、一部でせん孔細菌病の発生がみられ、今後も注意が必要です。

「あかつき」の収穫開始は、7/15 頃（魚津市果樹研究センター予測式より）と例年よりもかなり早まることが予想されています。収穫までしっかり管理を行い、販売に向けた準備も進めていきましょう。

2 病害虫防除

（1）結実樹（散布量：400 L／10 a）

回	時期	対象病害虫	散布薬剤名	希釈倍率	100ℓ当たり 必要薬剤量
11	7月上中旬 (破袋後)	灰星病	アンビルフロアブル	1,000倍	100 ml
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50 g
		カメムシ類			
		展着剤	マイリノー	20,000倍	5 ml

・園地により生育差があるので、散布は生育に合わせて実施してください。

・アンビルフロアブル、スタークル顆粒水溶剤の使用時期は、収穫前日（24 時間前）までです。

「あかつき」より前に収穫する品種がある場合は、特に注意してください。

未結実樹（散布量：5 L 以上／樹）

回	時期	対象病害虫	散布薬剤名	希釈倍率	100ℓ当たり 必要薬剤量
8	7月上中旬	せん孔細菌病、黒星病	デランフロアブル	600倍	166 ml
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50 g
		カメムシ類			
		展着剤	マイリノー	20,000倍	5 ml

3 着色管理

（1）破袋・除袋

破袋（写真1）、除袋の時期は、果実が品種固有の大きさに達し、地色の緑がやや白色になってきた頃です。実施時期の目安は袋の種類によって異なりますので、表1を参考に実施しましょう。

ただし、曇雨天が予想される場合は、表1より早め（1～2日程度）に実施しましょう。



写真1 破袋

表1 袋の種類による破袋・除袋の実施時期の目安

袋の種類		実施時期の目安
一重パラフィン袋	破袋	地色や着色程度を確認するため、収穫予定7日前を目安に、袋の下部分を破って広げる。
二重袋	除袋	収穫予定14日前を目安に実施する。

(2) 葉摘み

破袋・除袋が終了したら早めに実施しましょう。果実に密着している葉や光を遮っている葉を果実の周囲2～3枚程度摘みとりましょう。

4 樹体管理

(1) 新梢管理

- ①主枝や垂主枝の背面や基部付近で、日焼け防止が必要な場所から発生した新梢は、葉を数枚残して摘心しましょう。
- ②徒長枝は、新梢基部5～20cmから発生した長めの副梢(写真2①)2～3本を残して摘心することで、翌年の結果枝として利用できます。
- ③過度な摘心は葉枚数不足による樹勢や果実品質の低下を招くことから、最少限にとどめましょう。

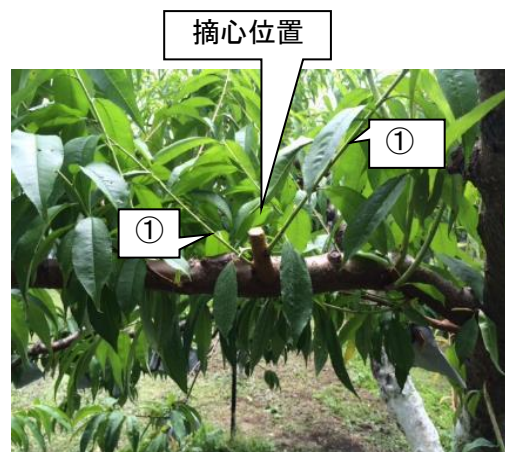


写真2 徒長枝の摘心による結果枝の確保

(2) 支柱立て・枝つり

果実の重みによる枝折れ防止や樹幹内を明るくすることを目的に、支柱立て・枝つり(写真3)を実施しましょう。

特に樹齢の経過に伴い、主枝、垂主枝の背面が日焼けした箇所などでは、果重により枝が欠損しやすくなるため、必ず実施してください。

脚立を使用する際は、倒れないよう安定化を図り、開き止め金具をチェーンで固定しましょう。



写真3 支柱立て・枝つり

- ★ 農薬を散布するときは、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。
- ★ 熱中症予防のため、こまめに水分を補給しましょう。